

特集

気仙沼、湾最大10メートル深く 大阪市立大調査



津波の水流で水深が増した気仙沼湾＝3日午後1時ごろ、気仙沼市魚市場付近

東日本大震災で気仙沼湾は、津波の強い水流が海底の砂や泥を押し流し、震災前より最大約10メートル深くなったことが3日、大阪市立大大学院の原口強准教授（地質工学）の調査結果で分かった。原口准教授は「沈没船を撤去すれば、船舶が航行できる深さは十分確保できる」と話した。

気仙沼市役所で記者会見した原口准教授によると、湾の幅が200メートル程度と最も狭い蜂ヶ崎付近で、震災前より水深が10メートル増した。市魚市場前も6メートルの水深が維持されていた。一方で、岸壁が76センチ沈下した地点もあったという。

津波で沈没した船は、湾内に約20隻あるとみられるが、撤去すれば航行に支障はないという。

原口准教授は「気仙沼湾が従来通りの機能を維持していることが分かった。今回の調査結果を復興に役立ててほしい」と話した。

調査は音波レーダーなどを用いて、3月27日から今月1日にかけて実施した。

2011年04月04日月曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō